



# 荻の里

黒部市立荻生小学校

学校だより 15号

平成29年3月7日

目指す子供の姿 **やさしく** **かしこく** **たくましく**

## アクションプラン最終報告 ～1年間の取組を振り返って～

早いもので、平成28年度も残すところ2週間足らずとなりました。保護者の皆様には、子供たちの心身の成長を実感されていることと思います。学校では、今年度の総まとめと来年度に向けての準備を行っているところです。

今年度のアクションプランに関する取組と評価についてお知らせします。今年度の成果や課題をしっかりと踏まえ、今後の学校運営・教育活動に取り組んでいきたいと思えます。今後ともご協力をお願いします。

【徳】 やさしく	重点項目	さわやかあいさつ（生徒指導）
	重点課題	好ましい人間関係を築く子供の育成
	現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会が中心となり、地域と連携して「さわやかあいさつ運動」を推進した結果、明るく元気にあいさつをする児童は増えている。今後も継続して、「あかるく い つも さきに つたえよう心」をあいさつの基本として、取り組んでいく。</li> <li>・ぼかぼか言葉等の言語環境を大切に、好ましい人間関係を築くために繰り返し指導する必要がある。</li> <li>・規範意識の醸成や自ら善悪を判断して行動する態度の育成について、学校・家庭・地域の連携が重要である。</li> </ul>
	達成目標	強調週間を設け、児童の自己評価で元気のよい「あいさつ」ができたとする日が8割以上ある児童の割合85%以上を目指す。
	方 策	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「さわやかあいさつ運動」を通して、地域社会とともにあいさつへの意識が高まるように努める。</li> <li>②年間を通して4A運動（あいさつ、あつまり、あとしまつ、あんぜん）を推進する。</li> <li>③積極的な生徒指導により、互いのよさや違いを認め、励まし合える集団づくりに努める。</li> </ol>
	最終報告	A（11月自己評価）94.6%（低…95.5%、中…94.3%、高…93.9%）
	成果と課題	<p>◎児童会のスローガン「明るく大きな声で、相手の目を見てあいさつしよう」を目当てに、あいさつ運動に取り組んできた。児童会計画委員会の児童が交代で、毎朝、あいさつを呼びかけたり、全校から「あいさつボランティア」を募ったりして、登校時の「おはよう」のあいさつを中心に、さわやかなあいさつの習慣化を目指してきた。「あいさつチャレンジウィーク」には、あいさつマスター（あいさつがしっかりできた人）にスマイルカードを手渡す取組も行った。2学期の「振り返り週間」期間中、全校児童の約95%があいさつをしていると答えており、あいさつに対する意識は確実に高まっていると思われる。</p> <p>◎今年度も、6月と10月の2回、地域の皆様にご協力いただき、「さわやかあいさつ運動」を実施した。どの学年の児童も地域の方とともに取り組む「さわやかあいさつ運動」の日を大変楽しみにしており、地域の方からも「気持ちのよいあいさつのできる子供が増えている」との声をいただいている。保護者評価でも、全学年を通して9割以上が「よくできた」または「できた」と回答されていることから、目標は概ね達成できていると言える。</p> <p>△保護者アンケートの自由記述では、「家庭でも、地区の方にもあいさつができて</p>

	<p>いる」という意見もある反面、「自分から進んであいさつできていない」という意見もあった。気持ちのよいあいさつが習慣として身に付き、朝だけでなく「いつでも」、校内だけでなく「どこでも」、地域の方や来校者など「誰にでも」、明るく大きな「相手に伝わる声で」あいさつができるようにするため、継続して取り組んでいく必要がある。</p> <p>△温かい人間関係づくりのためあいさつと同様に大切にしたい言葉遣いについて、「乱暴な言葉遣いが気になる」「言葉遣いが悪くなった」という意見も寄せられた。ほかほか言葉や使いたい言葉遣いについて代表委員会や学級会で話し合われたことを全校でしっかりと実践し、場に応じたあいさつや、丁寧な言葉遣いのできる児童を育てていく必要がある。</p>
--	---

【知】かしく	重点項目	生き生き学び合い（学習指導）
	重点課題	自分の考えを伝え合い、学び合う子供の育成
	現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな学力の定着のため、学習規律（返事、姿勢、鉛筆の持ち方等）の定着を図ったり、「聞く・書く・話す（発表）」活動を大切にしたりした結果、落ち着いて意欲的に学習に取り組む子供が増えている。</li> <li>・家庭学習がんばり週間を設けたり、自学ノートカバーを効果的に活用したりすることで、家庭学習に意欲的に取り組む子供が増えている。</li> <li>・自分の考えを伝えることはできるが、友達同士関わり合って話し合うことは十分ではない。</li> </ul>
	達成目標	強調週間を設け、家庭学習に取り組む時間が学年の目標（学年×10分）に達成した日が8割以上ある児童の割合85%以上を目指す。
	方 策	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「書く」「話す」「聞く」の活動を大切に、互いの考えを伝え合い、学び合う授業づくりに努める。</li> <li>②学習規律を大切に、安心して授業に参加できる雰囲気づくりに努める。</li> <li>③家庭と連携して、家庭学習の習慣が身に付くように努める。</li> </ol>
	最終報告	A（11月自己評価）95.4%（低…97.7%、中…92.5%、高…97%）
	成果と課題	<p>◎2学期の「振り返り週間」では、全校で95%以上の児童が「学年の目標時間以上、家庭学習をした」と答えた。特に、高学年では昨年同時期の54.1%と比べて大変高い結果となっている。家庭学習への意欲付けとして平成26年度より活用を始めた「自学ノートカバー」や自学ノートを7冊終了すると金メダルシールで授賞される取組等が児童にも保護者にも定着したことの成果でもあると思われる。</p> <p>◎5月、7月、10月、12月、2月の年間5回、「家庭学習がんばり週間」を設定し、学年ごとの目標時間、家庭学習に取り組むことへの意識付けを図った。また、学習参観に合わせて「自学ノート展」を開催したり、年間を通して「こんな自学どうですか？」の掲示を行ったりして、よい取組を広げるよう努めた。4月には、保護者用リーフレット「家庭学習の充実に向けて」も配布しており、保護者アンケートには、「宿題以外にも学習する習慣が付いてきた」「好きな勉強ができるのでよい」などの肯定的な評価が多く寄せられている。12月の「家庭学習がんばり週間」における目標時間の達成率は、全校で91%であり、家庭学習の習慣化は概ね達成しているものと考えられる。</p> <p>△一方で、「何をするか毎日悩んでいる」「内容がワンパターンになりがち」などの意見もある。学年ごとの目標時間を達成することによる家庭学習の習慣化を目指すのみでなく、大切な時間をかけるにふさわしい「実になる学習」の時間となるよう内容面への指導が必要である。</p>

	△「家庭学習がんばり週間」や「振り返ってみよう週間」には目標をもって意欲的に取り組むものの、習慣化にまでは結び付かず、強調週間以外には取り組むことができない児童もいる。一人一人に応じた声掛けや課題の提示等、意欲を高める支援を行っていく必要がある。
--	---

【体】 たくましく	重点項目	健やかな心と体（健康・安全の指導）
	重点課題	基本的な生活習慣と運動の習慣が身に付いている子供の育成
	現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちは運動好きで、「みんなでチャレンジ3015」にも意欲的に取り組んでいる子供が多い。しかし、運動や遊びの固定化や学年が上がるにつれて、運動しない子供とする子供の二極化の傾向が見られる。</li> <li>・昨年までの取組で、基本的な生活習慣が身に付いている子供が増えてきたが、早寝については家庭環境の違いもあり、なかなか改善できない子供も見受けられる。</li> <li>・どの学年にも、大休憩や昼休みに体育館やグラウンドで体を動かすことを楽しみにしている子供は多い。</li> </ul>
	達成目標	「みんなでチャレンジ3015」の達成率が90%以上になることを目指す。
	方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>①週2回のわんぱくタイム（大休憩時）には主としてランニング（晴天時）と長なわとび（雨天時）を取り入れ、運動する喜びを感じ取ることができるようにする。</li> <li>②体育委員会による企画や各種がんばりカードの活用により、運動する環境づくりを行い、運動する習慣が身に付くように努める。</li> <li>③「みんなでチャレンジ3015」の進み具合や達成状況を掲示し、意欲付けを図る。</li> </ul>
	最終報告	C（2月末達成率）84.8%（低…88.6%、中…73.2%、高…97.4%）
	成果と課題	<p>◎週2回のわんぱくタイムには、晴天時はグラウンド走、雨天時・冬期間には縦割りグループによる長なわとびと短なわとびに取り組んでいる。大休憩や昼休みには、グラウンドや体育館で元気に遊んでいる児童が大変多く、保護者アンケートでも、「学校でたくさん体を動かしていると聞いている。体を動かすことが好きなタイプではないが、体を動かす環境にあることに感謝している」「1年を通してわんぱくタイムで体を動かしているのがよい」などの意見も多くあった。</p> <p>◎1階放送室前の掲示板には、「みんなでチャレンジ3015」の一人一人の到達位置を示したコーナーを設置し、今、自分や友達がどこまで進んでいるかを確認できるようにすることで運動への意欲を高めるようにした。また、外での運動ができにくい冬期間には、「なわとびカード」を活用することでなわとび練習への意欲を高めるなど、年間を通して運動に取り組むような手立てを行った。昼休みには、体育委員会児童が「チャレンジランキング」を開催した。低・中学年の児童が進んで参加し、「ラダー」「握力」「万歩計」等の種目に取り組み、記録を測定する活動を通して、運動に慣れ親しんだ。</p> <p>△みんなでチャレンジ3015の達成率は、高学年では目標の90%を大きく上回ったが、低・中学年では、目標を下回った。特に、中学年女子の達成率が低い結果となった。日頃から体を動かすことを好み、進んで運動する児童と、わんぱくタイム等特設された時間以外では進んで体を動かさない児童の差が大きい。学校外では、スポーツ少年団や習い事で継続的に運動している児童とそうでない児童等、さらにその差が大きいことが予想される。運動の苦手な児童も無理なく、日常的に運動に親しむことができるような工夫を行っていく必要がある。</p> <p>△保護者アンケートからも、「寝る時間が遅いことや家で本を読むことが多く、外遊びをしないことが気になる」「スポ少や塾などで帰りが遅くなる日が増え、睡</p>

	眠不足になりがち」など、運動習慣のみでなく、睡眠時間の確保等、基本的な生活習慣に課題のある児童が見られることが伺える。学級活動や保健学習、学校保健委員会等を通じて、望ましい生活習慣の定着について指導を続けていくことが必要である。
--	--

## 荻っ子の健やかな成長を願って ～第3回学校評議員会より～

3月1日(水)、今年度最後となる第3回学校評議員会を行いました。2限の学習をご参観いただいた後、子供たちの学習の様子やアクションプランの最終結果等について協議し、様々な視点からご意見をいただきました。協議・懇談の概要をお知らせします。

### 【授業の様子から】

- ・どの学年・学級も、落ち着いた様子で真剣に学習に取り組んでいた。特に低学年では、全員がしっかりと学習に集中できているのに感心した。
- ・どの授業もよく工夫されており、教師が一方的に話すのではなく、子供が考えたり活動したりする中で学習することができる内容だった。
- ・「性に関する指導」等、子供自身が自分の成長の段階を知り、自分のことを考える学習をしているのがよい。
- ・英会話科の授業では、どの子供も恥ずかしがることなく、自信をもって大きな声で英語を話そうとしている様子に驚いた。自分たちの頃とは全く違うと感じた。
- ・保育所でも年間に6回程度、ALTとともに英語に触れる場を設定している。子供たちは、耳から英語に慣れており、聞いた通りに発音することができる。
- ・ALTには、授業だけでなく、給食時間や休み時間等にも、子供たちにどんどん話しかけてもらい、自然に英語に慣れることができるようにしてほしい。

### 【あいさつや返事、言葉遣いについて】

- ・保育所でも、「うちの子はあいさつができない」という保護者の声を聞くことがある。「まずは、家庭で大人があいさつし合うことから始める」ことを伝えている。保育所、学校、家庭、地域みんなで「あいさつ上手な荻生の子供」を育てていきたい。
- ・学童保育の指導員さんから、「指導員を〇〇先生、□□さん、と呼ぶなど、望ましい言葉遣いを心がける子供が増え、互いに注意し合う姿も見られるようになった。」と聞いている。学校全体での指導や代表委員会を中心に取り組んだことの成果だと思われる。

### 【学習規律の定着について】

- ・筆箱等の学習用具を見ると、どの子も学習の妨げにならないシンプルなものを使っていた。また、学習規律の第一歩として、「筆箱には、削った鉛筆〇本、消しゴム、ミニ定規、赤・青鉛筆(ペン)のみを入れること」や「ノートには下敷きを使うこと」を全校で指導していると聞き、とても大切なことだと感じた。

### 【その他】

- ・「みんなでチャレンジ3015」や「なわとびチャレンジカード」の達成状況を校内に掲示していることで、一人一人の状況が明確になるとともに、友達の様子を知ることでもできる。今、個人の評価を公開しないような動きもあるが、得意な子供には励みになり、他の子供にとっては、目標となるとも考えられ、よい取組だと思った。
- ・学童保育を利用する人数が大変多くなっている。保育所と学校、学童保育がより一層連携することで、子供のよりよい成長につなげていきたい。

子供たちの学習の様子について、多くのお褒めの言葉もいただき、大変うれしく思いました。言葉遣い、学習規律等、全校が一丸となって指導したことは、子供たちのよい変化として表れることも実感し、やりがいとともに、さらなる指導力向上の必要性も強く感じました。今後も学校評議員会の趣旨を生かしながら、保護者・地域の皆様のご協力のもと「**や**さしく **か**しこく **た**くましい荻っ子」の育成に努めていきます。

学校評議員の皆様、1年間どうもありがとうございました。